滋賀県
Shiga Prefecture

資　料　提　供

（県政・南部同時）

提 供 日：令和８年(2026 年)11 月 12 日(木)
部　　局：琵琶湖環境部
所　　属：滋賀県立琵琶湖博物館
担　　当：田畑、上坂
電　　話：077-568-4811
E-mail：info@biwahaku.jp

希少淡水魚の保護増殖への取組が高く評価されました

～タンゴスジシマドジョウの初繁殖認定とアユモドキの感謝状贈呈～

琵琶湖博物館で飼育・繁殖に取り組んでいる希少淡水魚・タンゴスジシマドジョウについて、令和８年（2026 年）９月 27 日に公益社団法人日本動物園水族館協会（以下、JAZA）から初繁殖認定を受けました。飼育下で生まれ育った個体同士によるタンゴスジシマドジョウの繁殖成功は全国初です。

また、同じく希少淡水魚であるアユモドキについても、生息域外保全事業への貢献に対し、令和８年（2026 年）11 月９日に環境省近畿環境局から当館として初めてとなる感謝状が贈呈されました。

これらを記念して、今年生まれの両種の幼魚を展示するとともに、保護増殖への取組を紹介するパネルや初繁殖認定書・感謝状等の展示を行います。

詳細について

【タンゴスジシマドジョウについて】

タンゴスジシマドジョウは、日本で最も希少な淡水魚のひとつで、京都府の丹後地域のわずか１河川にのみ生息しています。絶滅のおそれが非常に高く、環境省のレッドリストでは絶滅危惧ⅠA 類に分類され、種の保存法に基づく国内希少野生動植物にも指定されています。そのため、琵琶湖博物館では、環境省と JAZA の協力協定および近畿大学の協力の下、飼育・繁殖に取り組んできました。その結果、令和７年（2025 年）に飼育下で生まれ育った個体同士による繁殖に、初めて成功しました。これは、生息域外保全個体群として、飼育下で個体群を維持していく上で、重要な成果となります。この功績に対して、令和８年（2026 年）９月 27 日付で JAZA から初繁殖認定を受けました。



タンゴスジシマドジョウ（幼魚）

【アユモドキについて】

アユモドキも、日本で最も絶滅のおそれが高い淡水魚のひとつで、現在は京都府亀岡市の一部と岡山県の一部にしか生息していません。環境省のレッドリストでは絶滅危惧ⅠA 類に分類され、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種および国の天然記念物にも指定されています。

琵琶湖博物館では、水族展示室の前身の琵琶湖文化館の時代から 40 年以上にわたって、京都府南丹市（旧八木町）の個体を系統保存してきました。しかしながら、平成 29 年（2017 年）

を最後に繁殖が途絶え、その後、雌個体がいなくなる事態になりました。そのため、令和６年（2024 年）に淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会と環境省との協議の上で、亀岡市から雌個体を採集しました。この雌個体と当館で飼育していた雄個体を掛け合わせた結果、７年ぶりに繁殖に成功しました。また、令和６年（2024 年）からは環境省の保護増殖事業の一環として、亀岡市由来の雌雄個体を用いた人工繁殖にも取り組んできました。こうした保護増殖事業への貢献が評価され、令和８年（2026 年）11 月 9 日に環境省近畿環境局から当館としては初めてとなる感謝状が贈呈されました。



アユモドキ（幼魚）



環境省近畿環境局から感謝状を受け取る
琵琶湖博物館の水族飼育員（右）

展示について

今回の初繁殖認定および感謝状贈呈を記念して、タンゴスジシマドジョウとアユモドキの幼魚や初繁殖認定書・感謝状（いずれも複製）の展示を、下記の期間・場所にて行います。他にも、本事業に関する研究発表のポスターや過去の初繁殖認定書（ズナガニゴイ、ツチフキ）、繁殖用具類の展示も予定しています。

（生体の状態や館内の状況により、展示を休止・一部変更する場合があります）

開催期間：令和８年（2026 年）11 月 17 日（火）～12 月 11 日（金）
開催時間：９：30～17：00（最終入館 16：00）
開催場所：琵琶湖博物館水族展示室　ふれあい体験室　保護増殖センターサテライト水槽
観覧料：常設展示観覧料が必要になります。
＊両種の幼魚は保護増殖センターサテライト水槽内にいます。
＊両種の成魚は同展示室「よみがえれ！日本の淡水魚」コーナーの展示水槽にいます。
アユモドキの成魚は「内湖水槽」にもいます。
＊開催期間終了後も、生体展示、感謝状の掲示は継続予定です。
＊その他休館日等の情報は当館ホームページでご確認ください。
https://www.biwahaku.jp/



保護増殖センターサテライト水槽
（ふれあい体験室内）